リレー随筆

もしも奄美から足柄まで金魚を運ぶことになったら

神奈川県立足柄上病院　**熊原悠生実**

桜ヶ丘管弦楽部OGのますみさんからバトンをいただきました，熊原と申します。ますみさんはチェロで私はヴィオラ，管弦楽部の初期メンバーとして「世界の車窓から」「情熱大陸」など弦楽四重奏でご一緒させていただきました。

鹿児島大を卒業後，県立病院群の研修医として2年間奄美に住んでいました。なので，ますみさんと入れ替わりです。デキレジでもないくせに，地元紙等で「奄美の研修医」と大きめの主語で活動していたのを温かい目で見守って指導してくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

今は神奈川県のだいぶ西側で，「足柄の専攻医」として整形外科1年目らしく，至らない点を修正していくので精一杯な日々を過ごしております。ますみさんが，遠くに行った私のことを思い出してくださったのがとても嬉しく，バトンを受け取って，他の先生方と同じくさて何を書こうか迷っていました。

熊原のことだから，奄美のオススメや，ヴィオラのことを書いたりすると予想されているだろうか。そう思いつつも学生時代から合わせて2万枚に膨れ上がったiPhoneの写真フォルダを眺めるばかりで猶予のあったはずの締め切りが近付いてきてしまいました。

そんな中，先日高校の先輩と話す機会がありました。今回は，その時にいちばん先輩の反応が良かった，私の可愛い金魚達の大移動のお話にしようと思います。

時は2019年8月末，私は研修医1年目。夢見ていた南国ライフとは程遠く，しっかりと1年目の洗礼を浴びて日々当直を乗り切るので精一杯なのが続いていた。土日の半分は当直とその後の睡眠時間で持っていかれ，奄美特有の天候の悪さも手伝い，すぐ取れるだろうと思っていたダイビングライセンスも取れる気配が全くないまま半年近く過ぎようとしていた。この頃やっと，土日にけっこうな気合を入れないと，思い描いていたようには奄美を楽しめないことに気づき始めていた。

そんな中，心優しい研修医2年目の先輩が鹿大病院のローテから戻り，夏祭りに誘ってくれた。奄美では島内各地で夏祭りがある。名瀬市街地の花火はもちろん行ったし，県病院が参加している奄美祭りのパレードには新入職員として着物と笠をバッチリ装着して前から3列目で踊り歩いたが，それだけでは奄美の夏を満喫したことには全然ならないのである。今回は大和村のひらとみ祭り，お酒が飲めない先輩が運転する車に4人で揺られて1時間ほどの村に行くことになった。

普段は真っ暗で星がよく見えるはずの村の中に，やけに明るいエリアがあって，そこに出店が並んでいる。あたりは煙に乗って香ばしい匂いが溢れ，ステージでは島んちゅが歌う。まさに「夏祭り」といった光景が広がっていた。冷やしパインや焼鳥，ビールなんかも飲んだんじゃないかと思う。日本の夏の風物詩，非日常なその雰囲気に我々は完全に飲

まれていた。

そして，先輩が金魚すくいをしよう，と言い出した。

私は金魚すくいが大好きだ。あの貧弱なポイで，スイスイ泳ぎ回る金魚をすくえた時の感じがやみつきになる。と同時に，生き物を遊びの素材として使い，簡単に扱われている感じがなんとも複雑な気持ちにさせる。

小さい頃，犬猫アレルギーだった私は，当然，毛のはえた動物を飼うことが許されなかった。それはしょうがない，痒くなってしまうのは事実だから，と幼児ながらに分かっていた。そこで両親が生き物好きな私のためにと考えてくれたのだろう，物心ついた頃には金魚やめだか，アカヒレなどの魚を飼っていた。

だから，私にとって，金魚すくいをする＝単なる夏のイベントではなかった。ここから先数年，いや，長ければ5－6年の時を共にする，同居人が増えるかどうかの一大決心になるのだ。キャッチアンドリリースすればいいじゃない，という声も聞こえてきそうだがそうはいかない。素人にポイですくわれるという，金魚にとっては何のメリットもないことを繰り返されるのは，可哀想な気がする。

どうするどうする，やっちゃう？となる中，5分ほどあーだこーだ言いながら迷い，やるなら飼います，と言った。そして4人全員で臨み，結果，先輩方のうち1人が1匹と私が3匹の合計4匹をすくった。こうして小赤2匹と黒出目金2匹我が家にやって来たのである。

残念ながら小赤のうち1匹はすぐに死んでしまったが，残る3匹はまあまあな生命力だった。水槽に入れてやると小さな体で勢いよく泳ぎまわり，すぐに餌を請求することを覚え，寂しい一人暮らしが少し明るくなった。帰るとおかえりとお出迎え…というよりは餌の請求だが，寄ってきてくれるのが何とも愛らしい。

鹿児島本土のローテで家を空けないといけない時は，金魚の飼育経験がある同期の田村くんに預かってもらった。2年目になると寮のお隣に越してきた1年目のとっくんこと徳田弘幸くんも申し出てくれて，3カ月預かってくれた。心優しいとっくんは，がめつく餌をくれという金魚の請求に答え，1日4回も餌やりをしてくれた。それでも「足りない」と，夜中に砂利をチャリチャリ鳴らしたり跳ねてビチャビチャ音を立てたそうであるが，とっくんは不眠になりながらも3カ月間しっかりと愛情を注いでくれた。宅飲みをすれば酔っ払い達が「金魚に餌やっていい？」と言って，最後の方には許可なく大量に餌をやる先生もいた。

そんなこんなで皆さんに可愛がってもらって生き残った3匹は丸々と大きく育ち，ポイで簡単にすくわれてしまうほど小さかったのが，1年でちょうど私のiPhone8くらいの大きさにまでなった。水換えのためにネットでバケツに移動させる時なんかは，もはや寿司屋で生け簀からあげられる時の鮮魚のようである。

そうこうしているうちに時は流れ，2020年12月。整形外科に進むことは決めたが鹿児島に残るか千葉に帰るかなどと迷った末に，縁

もゆかりもない神奈川に行くことにした。理由は色々あるが，とにかく神奈川に行くことにしてしまったのだ。縁もゆかりもないから，奄美の本格フレンチ料理店プッセ（多分研修医の期間中一番よく行ったお店）でとっくん達とご飯を食べているときに，2021年度の人事で私が足柄上病院に勤務することを告げるメールが来たときも，全くピンと来なかった。「足柄って，金太郎じゃないですか？ほら足柄山の金太郎！」と言われてようやく何となく分かったふりができて，とりあえずググってみる。箱根が近いじゃないか。横浜からは遠いみたいだけど，良さそうだなあ。どうやって引っ越すのがいいかな。ここで初めて気づく。

え，金魚，どうしよう。

かわいい金魚を，人にあげるという選択肢はない。でもどうやって持っていけばいいかわからない。人生大概どうにかなると思って生きてきたが，どうにかしないとどうにもならないのだ。当たり前である。

そもそも，引っ越し関連のスケジュールが何も決まっていなかった。当時奄美はコロナ患者数0が続いていたが，神奈川はそうはいかなかった。早速来年お世話になる整形外科の上司に色々と教えてもらい，家を決めるのに一度神奈川に行く面倒くささが勝った私は，とりあえず病院の寮に入居させてもらうことに決めた。

そして，大学の同級生の結婚式が3月末に鹿児島市内で行われる予定だった。ちょうどコロナも落ち着いていたし，今回は延期されないだろうとのこと。結婚式前に，一旦金魚を連れて新居を整えに行く手もなくはなかった。しかし，入居可能となる日にちが結構先だったのと，（今思うと私が居てもあまり役に立たなかった気はするが）ローテしている内科のチーム全員が異動で最後の方の欠員が多かったのもあり，できるだけ最小の移動にしたかった。

鳴かない生き物であれば，JAL便で機内持ち込みできることは知っていた。しかし，引っ越しの最後の方で発生するであろう荷物と，結婚式に着ていくためのドレスに加えてiPhone8サイズの金魚3匹を抱えて城山ホテルに1泊するのは非常に現実的ではない気がした。

奄美から鹿児島までフェリーで行き，船内と鹿児島から神奈川までの車中は何かしら電源をまわしてブクブクを回すことも考えたが，運転があまり上手でないので長距離の一人移動はできれば避けたかった。

もし金魚だけ実家のある千葉に送ることができたら，とりあえず輸送の手続きだけで済む。実家から今度住む寮までは車で約2時間，その間なんとか酸素は持つだろう。

ふるさと納税でも金魚やメダカの返礼品があるくらいだから，郵送だろうか。ヤマト運輸や日本郵便のHPをみると，送ることはできそうだが，奄美からだと日数がかかってしまい，でっかい金魚3匹を酸欠にさせずに送るのは厳しそうだった。

となると，空輸か…？

JALのHPをみてみると，「※ペットのみを輸送する場合は貨物扱いとなります。動物の輸送案内（貨物）をご確認ください。」と書いてある。「動物の輸送（貨物）」のボタンをクリックしてみると，たしかに魚類は輸送できないとは書いていないが，基本的には4足動物の輸送を前提とした書き方しかしていないので，金魚は送れるのかイマイチわからない。生き物の貨物の詳細を問い合わせる電話番号やメールアドレスもわからずここで止まってしまったが，父と電話している時に地元の

人に聞いてみなさいと言われた。そんなの思い当たる範囲はもうやってるよ，と思ったが，奄美のペットショップに聞いてみなさいと言う。ここにありそうだよとURLが送られてきた。そんなとこに熱帯魚屋があったかな？と思うくらい名瀬の知っている場所であったが，書いてある電話番号にかけてみると，なんと，つながったのである。その女性は，もうお店は数年前に閉めたのだけど…と言いながらもその大きさの金魚で関東なら郵送ではなく，やはり羽田行きのJAL便に，ビニール袋に詰めて貨物で乗せる形になるはず，奄美空港のJAL CARGOに電話すれば詳細を教えてくれる，と教えてくださった。閉店しているのにもかかわらず，丁寧に対応してくださったのに感動してしまった。生き物の輸送のこと全般に関してJALに問い合わせようとしていたが，奄美空港のJALの貨物部門に電話すればよかったのである。本当にこの方には救われた。

電話番号まで教えてもらって，早速問い合わせた。貨物のスペースが限られているので事前に予約しておかないと日によっては送れないこと，その日の空きスペースによって，この大きさ以内であれば送れる，というのがあることを知った。候補日をいくつか教えていただき，そのうち指導医に15時台の羽田行きのJAL便に金魚を乗せたいことを伝え午後休をとっていい日を確認した。日にちが決定すると，今度は大きさを伝えられ，適したサイズのダンボールを探しにタイヨー・マツキヨ・ニシムタを巡り，厚手のビニール袋も購入した。Youtubeで魚を輸送するときの梱包法を確認し，我が家も子供が魚を持って先に鹿児島市に帰ったという先生から酸素ボンベの残りを譲り受け，準備万端だった。

当日，仕事から一旦帰宅し，手早く金魚を厚手のビニール袋を2枚重ねにしたのに水と一緒に入れる。酸素の出る石も入れ，ダンボールに詰める。車の助手席にそれを乗せ，O2 demandを減らすべく，金魚の水温が上がらないように冷房をかけ，3月ですでにカンカン照りな奄美の太陽で温まってしまったシートとの間にアイスノンを敷く。飛行機の出発時間の90分前までに金魚を持っていかねばならない。奄美空港まで車で40分，時折ひっくり返っていないか確認しヒヤヒヤしながらなんとか着いた。

いつも使っている奄美空港だが，今回は右手のJAL CARGOに向かう。入り口まで持っていくと，すぐに「予約の方ですね」と対応してもらえた。袋を開けて中身の確認を受けないといけないので，このタイミングで飛行機には乗せられない酸素の出る石を割り箸でつまみ出し，頂いた酸素ボンベを注入する。他の係員さんたちも何を送るのかとよってきて，「あ，これ，2年位のでしょ？うちもお祭りのを飼ってるよ。いま3年目！」と思わぬところでお祭りの金魚トークで盛り上がりつつ，5分くらいで酸素ボンベを使い切るまで注入し，袋を輪ゴムで縛った。運賃はダンボールの3辺の長さ（cm）をかけ合わせた数字÷6000の数値と，重さ（kg）の数値の大きい方で値段が決まる。ちなみに，生きた動物は一般運賃の5割増しになるが，魚類は例外である。今回は，重さ8kg，4,360円であった。1匹あたり1,500円で飛行機に乗れると考えると，非常に良心的だと思ってしまった。

羽田空港ではリタイアして時間を作りやすくなった父が待っていてくれた。夕方には金魚が無事届いてどうもなさそうである，という連絡がきた。午後病院に帰ってからも，金魚が無事か気が気でなかったが，ようやくホッとした。

しばらく千葉の実家で過ごすことになった金魚達は，父と母の姿をみるとエサを求めて水を飛ばしながら大暴れしたため隔離部屋に置かれたそうである。それでも久しぶりに金魚のいる生活を楽しんでくれた母は，数日に一回は，今日も金魚は元気だよと動画を送ってくれた。

その後，研修医生活に終わりを告げ，鹿児島での友達の結婚式も金魚の心配をすることなく思いっきり楽しむことができ，程なくして足柄での専攻医としての勤務が始まった。4月半ばに家が比較的整ったところで父に金魚を連れてきてもらい，元通り帰れば金魚のいる生活が始まり，6月に出目金が1匹亡くなってしまったが，残りの2匹は相変わらず元気ハツラツである。

4月にまた異動になりそうだが，今回は多分県内の移動で陸続き，ここまで苦労せずとも運べるであろう。

長々とお読み頂き，誠にありがとうございました。県病院勤務中に金魚すくいをしてしまった，もしくは今後するかもしれない方は参考にしていただけますと幸いです。

次回のバトンは，研修医時代に大変お世話になりました，青森県出身，奄美を大好きになってしまった山端裕貴先生に受け取っていただくことになりました。山端先生が何を語ってくださるのか，楽しみにしております！

次号は，鹿児島県立大島病院 山端裕貴先生のご執筆です。 (編集委員会)